

ヴィンテージTシャツ ガイドライン

昨今、ヴィンテージTシャツが高騰しています。特に90年代以前のバンドTシャツや、当時のアニメTシャツなど、数十万で取引されるような物もあります。それに伴い悪質な偽物がここ数年で大量に出回っております。ブートや偽物の違いや、押さえておくべきポイントを共有いたします。



ヴィンテージ・ブーツ・現行(リプリント品)・偽物の違い

【ヴィンテージ】

当時オフィシャルで発売された物。

特に80~90年代のアイテムが人気。

00年代の物も昨今評価され始めています。



【ブーツ】

80~90年代当時、オフィシャルではなく、ファンが勝手に作った物や、LIVE会場の外で個人が勝手に販売していた”当時の偽物”。

しかし、オフィシャルには無い、オリジナルでデザインした物なので、古着・ヴィンテージとしての価値を見出されている物もある。



【現行・リプリント品】

現在オフィシャルで販売されている物。

ヴィンテージのデザインもあるが、当時の物と比べると、印刷方法やTシャツ自体のクオリティの違いから、そこまで評価はされない。



【偽物】

上記ヴィンテージのタグやボディをコピーした、悪意ある偽物。無地の90年代のTシャツを仕入れ、当時のデザインをプリントし、“ヴィンテージ”と称し高値で販売している業者もいます。

※タイや中国で多くつくられ市場に出回っている現状です。



ステッチの違いと年代の関係

90年代前半 以前
袖:シングル
裾:シングル



移行期
袖:シングル
裾:ダブル



90年代後半 以降
袖:ダブル
裾:ダブル



ヴィンテージTシャツによく使われるメーカー・タグの一例

※1 同じメーカーでも年代によってデザインが変わります。

※2 このタグの偽物が存在します。しっかり調べて買取しましょう。

※3 あくでも一部です。「このタグじゃないからヴィンテージでは無い」ではないのでご注意ください。



00's(Y2K)・現行(リプリント品)のタグの特徴

【2枚タグ≒Y2K】

- ・90年代後半～00年初め
- ・生産国アメリカからメキシコへの移行期



【プリントタグ≒リプリント品】

- ・00年～現行
- ・首元生地に直接プリントされている
- ・アーティストや所属レーベルの記載がある



「偽物かも？」気づくためのポイント

以下ポイントが散見されたときは、疑いを持って査定に臨みましょう。
判断がつかないときは素直にお返ししましょう。

- ① googleレンズで調べたら、高価格の物が出てきた。
→偽物を持ち込んできた可能性を視野に入れて査定。
- ② 首タグが特定のボディメーカーである。
→「タグが偽物」の可能性を視野に入れて査定。
- ③ きれいな状態で持ち込まれた。
→ボディは本物でもプリントが偽物の可能性を視野に入れて査定。

オフモール掲載写真のポイント

①全体



②首タグ

なるべく接写する。裏面も忘れずに。



③裾・袖のステッチ部分

見本のように折りたたむと、写真1枚で掲載できます。



④コピーライト(発見したら)

©〇〇〇〇〇などの数字や文字



Champion (Vintage)

CHAMPION (チャンピオン) : 1919年、ニューヨーク州ロチェスターに設立され、1920年にチャンピオンニットウェアカンパニー社としてスタートしました。当初はセーターやシェーカーニット (厚地で上質なニット) を販売していましたが、やがて野外労働者の防寒用として考案したウールのアンダーウェアがその保温性、耐久性から米軍の訓練用ウェアに採用されました。また全米の大学の公式ユニホームなども手掛けている歴史と信頼のあるブランドです。



1940's頃のまだCHAMPION knitwear時代のタグです。ヴィンテージのカーディガンに付いているタグです。この頃のCHAMPION製のニットは厚手で、毛玉になりにくく、今でも状態が良く残っているものが多いです。70年前の商品ですので、玉数自体が少なく、状態やサイズによって異なりますが都内の古着屋で8万〜10万位で販売されています。もちろん柄や色によって価格は変化します。
大変人気の高いアイテムだと思ってください。このタグは、ランナースタグと言われているタグで、真ん中の四角に走っている人が見えると思います。だから、通称ランナースタグと呼ばれています。レタード物、無地物、かぶりもの、ボタン物で値段が変わりますので注意しましょう。買い取り金額は1万〜2万が相場だと思います。(色、柄、サイズ、シルエットに注意して買取しましょう。)



このタグも1940's頃のランナースタグです。右の写真はこの大判ランナースタグが付いているパーカーの写真です。ZIPPERは扇型TALONでした。色が赤なのが残念ですが、このパーカーで販売金額は5万円前後だと思います。



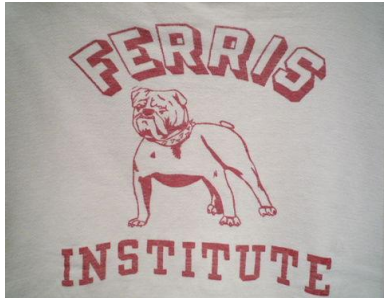
1940〜50'sのドリズラーJKTです。この年代のタグは、アイテムによって種類が使い分けられています。この写真のドリズラーJKTは販売価格で18000円くらいです。CHAMPIONといえばやはりKNITかパーカー、スウェットが人気です。JKT類は同じ年代でも価格が落ちます。



1950年代のTシャツです。もちろん、ランナースタグです。この年代のTシャツは程度がよくてサイズが良ければ2〜3万位が販売価格になります。使用感があるのであれば、1万位になると思います。



50年代オリジナルのチャンピオンズウェットパンツになります。珍しい四段プリントで、タグはランタグです。色はナス紺と呼ばれています。販売価格は1万円位だと思います。



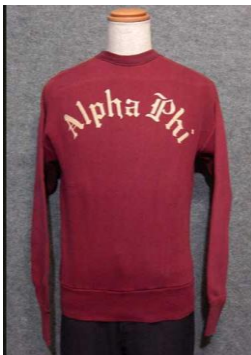
こちらの商品も1950年代のランナーズタグ（上のタグと一緒に）のオリジナルスウェットです。プリントの柄に注目してください。上から3段に分かれてプリントされていますよね、これを3段プリントと呼びます。4段であれば4段プリントと呼びます。ちなみに、わかりづらいですが、この商品は染み込みプリントではありません。染み込みプリントであったなら販売価格は3万5千円位ですが、恐らく、この商品はラバーかなにかのプリントだと思うるので、その場合は



被りタイプの襟付きスウェットです。ZIPPERはFALCONです。やはり、通常のスウェットに比べると人気は落ちます。なので、同じ1950年代のランタグですが、販売価格は1万円くらいがよいでしょう。



1940年代のタグです。レディースでしょうか？詳しくは分かりませんが、1枚目の40年代のタグが主流でよく見かけます。



1943sのレタードニットです。色もサイズも状態も最高品です。販売価格は、¥85,000-

1950sのスウェットです。色は余り人気のないカラーです。プリントもいまいちです。

画像が汚くてすみません。スペシャルです。1950sのランナーズタグオリジナルポートネックスウェットです。古着屋さんで¥300,000-で販売されています。

レプリカです。袖にCHAMPIONマークが付いています。オリジナルと間違えないでください。

Champion 60's Vintage



1960sのランナースタグです。40、50'sのランタグとの違いはCHAMPIONのCの文字の中にランナーが入っています。価値的にはやはり50'sが高いです。それでもやはりCHAMPIONのヴィンテージスウェットの人気は高いので販売価格で2万くらいを目安にしてください。(柄、状態、サイズにより大きく変化します。)



1960sのスイングトップです。売れません。販売価格で5千円位でしょうか？無理なくてよいアイテムです。



1960's 売れない第二弾です。これ系のJKTは非常に多いです。価格的にはやはり5千円位をお願いします。ちなみにランナースタタキタグです。



1960年代のタタキタグと呼ばれているタグです。ジャージはサイズがよければ1万5千円～2万円位でよいと思います。サイズが小さいものが多いので小さければ無理しないでください。



1960sのランタグフットボールシャツです。フットボールシャツ自体が人気があり、さらにCHAMPION社製のボディなので当然、価格も上がります。X-LARGEでも1万5千円位でしょうか。もしもサイズがSなら2万円位します。



1960年代のナイロンJKTです。このアイテムも売れません。よく見かける商品です。売価で4～5千円がよい所だと思います。お店に2枚以上はいたらないと思います。



1960年代のTeeです。ランナーズではなく、プロダクツタグと呼ばれているタグが付いています。販売価格は1～1万5千円が妥当だと思います。配色もツートンになっていて人気です。



1960sのタタキプロダクツタグのリバースウィーパーカーです。前にも説明しましたが、CHAMPIONはとにかくスウェットとパーカーです。とにかく人気が高いです。販売価格は3～4万位です。強気で行きましょう。

1960s Champion その他のタグ	
	この写真のタグも1960sのタグになります。

Champion Vintage 40's



1940sのランナースタグになります。オリジナルです。戦時中だからなのかは分かりませんが、布ではなくスタンプで刻印されています。販売価格は20万くらいするのではないのでしょうか？大変貴重な商品です。

Champion Vintage 70's



1970sの単色タグと言われているタグになります。単純に一色しか使われていないのでそう呼んでいます。この写真の青のほかに黄、赤、緑があります。**レプリカも出ていますので注意しましょう。**販売価格は、スウェットで2万前後、パーカーで3万円前後です。大きすぎるサイズの商品はそれ以下で設定しましょう。この辺のVINTAGE商品は比較的に手に入りやすいので買取があると思います。



こちらも1970sのバータグと言われているタグです。よくTeeについています。この辺は本当によく見かけますので、覚えましょう。1970年代です。ちなみに青いバーの中にCHAMPIONと表記があるのでバータグと呼ばれているのだと思います。（詳しくは知りません。）染み込みで霜降りボディで柄が良く、サイズがよければ販売価格は5千円位でよいと思います。レプリカも出ているので見分けられるようにしてください。

レプリカとオリジナルの見分け方

見分け方ですが、一番分かり易いのは中の株タグが付いていたら間違いなくレプリカです。（レプリカも人気がありますから、しっかり買い取りましょう。）次に、袖にCHAMPIONマークが縫い付けられていたらそれもレプリカです。たまに株タグを切ってから持ち込むお客様がいます。オリジナルとさせるためです。しかし、なればすぐに違いが分かるようになります。生地感、タグの文字感の違いも覚えていきましょう。だいたいは状態が良すぎたらレプリカです。

●メンズアイテム査定の基本

①まずメンズアイテムは生産国を見よ！！

【made in USA】は評価が上がります！

男はいつだってアメリカが好きなんです・・・

USA製の品物の特徴：生地が厚い、縫いが雑だけどしっかりしている、頑丈=質実剛健

例) 状態は綺麗な同じ無地のポケットTでも・・・

made in china=¥500売

made in USA=¥1,500売

ぐらい評価してもOKです！メンズ古着のカテゴリーで『アメリカ製』というのは価値があります。

②状態・サイズ感には注意せよ！

ヴィンテージ=価値があるというわけではありません。

『実際に着る事ができるか？』『サイズが小さすぎないか？』『お直しなどされていないか？』

買い取るな！ということではありませんが、売価設定に差を設ける必要はあります。

※メンズアパレルで値段を付けられるサイズ感= **ゴールデンサイズ**

トップス=L~XL 今は特にオーバーサイズが流行。メンズ古着という視点でも大きめがいいとされます。

ボトムス=32インチ~36インチ(L~XL) スキニーパンツだと話は違いますが、やはりこれぐらいの大きさは評価◎

トップス・ボトムス共にXS~Sサイズは売れ残ります。即売価格で設定を！

●今回の研修で特集されたアメカジブランド

①PENDLETON(ペンドルトン)：ウール素材のチェックシャツやブランケットで有名なブランド



代表的な『ポートシャツ』

特徴：オープンカラー・フラップポケット

ボックスシルエット

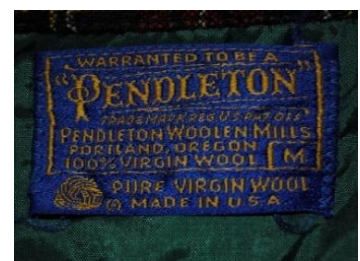
※シルエットがシャープな『ライダーシャツ』も有名



60年代以前 USA表記無し



現行タグ のっぺりした感じ



70年代~ USA表記有

ポートシャツ年代別相場感	
状態A サイズL	
~60年代	¥30,000
70年代~	¥20,000
現行	¥8,000

※ウールのシャツなので、ピンホール(小さい穴)が空いていることが多いです。その場合は上記の6割以下の売価イメージ。

②LEVI'S

査定のポイントは・・・

【ボタンの裏】の【数字・アルファベット】

1文字or2文字=ヴィンテージ確定！しっかり調べよう！！

3文字=USA製なら高く評価！90年代の物が多い！

555(5のゾロ目)=ただの復刻では無い！高評価！！

その他=ふつー。復刻モデルならちょい評価

《解説》 ボタンの裏には製造工場・国を表す数字やアルファベットが打ち込まれています。



1～2文字=80年代以前=ヴィンテージ評価！しっかり細部まで調べましょう！



555=バレンシア工場製のデニムです！

通常ラインのデニムと違い色落ちがヴィンテージに近いと評判
(コーンミルズ社のデニムを使っているのが理由とされています。)

復刻アイテムの中でもバレンシア工場製は評価アップです！

W32 47年の501復刻 状態Bで ¥15,000売りは固い



J22=日本製のモデル。

90年代。ヴィンテージがあまりにも高騰している中、日本製は現在
手に入りやすい復刻モデルです。Lサイズ以上のデニムジャケットなら
¥10,000以上の売価設定も全然あります。

○内タグのデザインでおおよその年代を知ることができます



ヴィンテージの内タグ
和紙っぽい紙タグ。「LEVI'S」のロゴは無く
小ぶりでシンプルなデザイン。
右側の印字内容で細かい年代などを見分けます



90年代のタグ
刺繍の布タグもありますが
「ヴィンテージタグではないがUSA製」なら
90年代～00年代確定です。評価アップ！



LEVI'S VINTAGE CLOTHINGタグ
復刻ラインのタグ。型番で調べれば
大体の金額出てきます。



現行はつつるした感じのタグ。

※その他内タグを見るときポイント

○製造国：made in USAなのか否かをチェック。USA製は高評価！！

○LOT番号(型番)の前の数字は復刻している年代



右の写真の場合

44 501

年代↑ ↑ 型番

つまり

44年の501を復刻しているよ！って意味です。

③Champion

査定のポイント

1：USA製かチェック →NO ふつー サイズやデザイン・状態で査定

↓YES

2：日本語表記の内タグがあるか？→NO 90年代以前可能性。ヴィンテージ評価もあり得るのでしっかり調べる！

↓YES

現行の復刻ライン。通常ラインよりは高評価OK。

タグで見分けるざっくりとした年代



ランナーズタグ 50年代～
オリジナルはまず持ち込み無い。



単色タグ 70年代～
青・黄・緑などあり。オリジナルの持ち込みは少ないと見てよい。



トリコタグ
80年代 たまに見かけるレベル。
USA製で日本語表記のタグが無ければ
80年代確定



刺繍タグ 90年代
無地・目あり・サイズLで¥9,000前後

※リバースウィーブとは？

脇の下の織りの向きを変えて型崩れや縮みを防ぐ技術
他ブランドでも見られる技術ですが、リバースウィーブ
という言葉を使っているのはチャンピオンだけ。



LEVI'S

501xx 1873~1902年頃 (通称: ワンボケ)

特徴

- ・4ポケット(バック×1、フロント×3)です。バックPのリベットむき出し。
- ・サスペンダーボタンがついています。
- ・シンチバック(バックに付いているサイズ調整するベルトのこ)使用。
- ・クロッチリベット(股リベット)使用。
- ・リベットに刻印(特許取得日を刻印してあります)があります。1890年頃まで特許日刻印使用。
- ・1886年頃から革パッチを使用しています。
- ・生地はアモスケイグ社製を使用。
- ・JEANSではなく、WAIST OVERALLSと呼んでいました。
- ・ベルトループ無し



当時のアーキュエイトステッチです。1本針でのステッチング、糸は垂麻糸を使用していました。1873~1942年頃まで使用。



トップボタンです。この年代の特徴として真ん中中央がくぼんでいます。1873~1910年頃まで使用。

世界的に価値の高いボトムです。博物館級です。はっきり言って我々には関係のない商品だと思ってください。ただし、複製品が入ってくる可能性はあります。オリジナルの買取金額なんかは想像できません。へたをすると何百万でしょう。写真すらあまり出てきません。雑誌にたまに載っていますが、実物はどこにあるのでしょうか?もし万が一査定がきても素手で触れないで下さい。少しでも破損がでたら大変です。触ることもできない位の希少価値ある商品です。1940年代の501xxでさえ50万~100万します。この年代の501xxは売価で300万位だと思います。ちなみに、レプリカ出ますが、格好が悪いので人気がありません。定価は3万弱、売価は5千円が良いところでしょう。古着屋では2万位で販売していたりしますが、気にしないで下さい。サイズによってもっと安くても良いですよ。ちなみに現行モデルのゴールデンサイズは29~31インチです。ウィンテージは一点一点縮み方が違うので30~33位がゴールデンサイズになります。覚えておいてください。



リベットです。よく見ると年代が刻印されています。これが特徴です。1873~1890年頃まで使用。



1890~1950年頃のリベットです。



1873~1890年頃の内側(裏)リベットです。こちらにも年代が刻印されています。



1890~1966年頃までの内側リベットになります。年代は刻印されず、LS&Co. SFと刻印されています。

特徴

- ・5ポケットに変更になりました。(バックPのリベットむき出し)
- ・サスペンダーボタンがついています。
- ・シンチバック使用。
- ・クロッチリベット使用。
- ・アーキュエイトステッチ (1本針)
- ・革パッチ
- ・アーキュエイトステッチは1873~1902年から大きな変更なし。



ワンポケ時代から変更はありません。あいかわらずリベットむき出しです。(1本針)



トップボタンです。真ん中が凹んでいます。



シンチバックです。



裏リベットです。年代の刻印無しです。



クロッチリベットです。



サイドシーム(セルピッチ)です。



革パッチです。

1902~1922年頃の501 x xです。こちらも非常に価値の高いデニムです。もしオリジナルだとしたら状態や細かい年代により異なりますが、250万円位です。知識として覚えておいて損はないと思います。ワンポケモデルとの大きな違いは何よりもバックポケットの数の違いです。

特徴

- ・5ポケット
- ・サスペンダーボタン
- ・シンチバック
- ・クロッチリベット
- ・アーキエイトステッチ（1本針）
- ・革パッチ
- ・ベルトループが付きます。
- ・生地がアモスケイト社からコーンミルズ社製に変更になります。



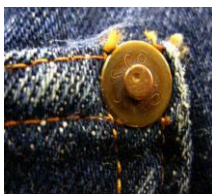
1本針のアーキエイトステッチです。ちなみに2本針は47's頃から採用になります。見た目の違いとしては、中央の三角部分に交差ステッチができます。この年代は交差ステッチが無いので1本針と判断できます。まだリベットはむき出しです。



シンチバックのアップ画像です。初期から40年代頃までのシンチバックは針みたく尖っていました。現在はPL法の関係上、尖っているシンチバックはほとんど作られていません。



ボタンフライです。



リベットです。現在との違いは中央が叩かれていることです。



サイドシームです。



内側リベットです。

何よりも特徴はベルトループが付いたことです。こちらも値段は変わらず250万円位です。



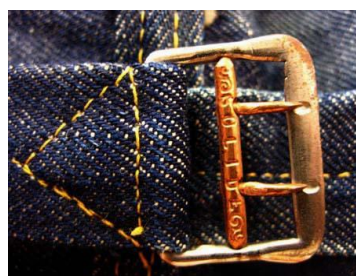
革パッチです。

特徴

- ・5ポケット（補強はむき出しから隠しリベットに変更）
- ・シンチバック
- ・クロッチリベット
- ・アーキエイトステッチ（1本針）
- ・革パッチ
- ・ベルトループ
- ・赤タブ、BIG"E"、片面刺繍が付きます。



何年代から採用しているかは分かりませんが、コインポケットの裏にも赤耳が採用されています。これを、耳付きコインポケットと呼んだりします。



シンチバックの種類です。全てではないと思いますが、知っている2種類だけ説明します。左が、ANCHOR社製、右がSOLID社製のシンチバックです。



革パッチです。写真はこの年代の501xxオリジナルDEADSTOCKの写真です。すごくきれいに革パッチが残っています。



股リベットです。

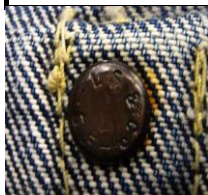
1936~1942年頃の最大の特徴は赤タブが採用になったことです。まだ片面のみの刺繍で、Rマーク無しです。Vの字が左右対称なのもVINTAGEの特徴です。「I」が丸くないのも60年後期位までの特徴です。



内側リベットです。

特徴

- ・5ポケット(隠しリベット)
- ・クロッチリベットはほとんど削除されていますが、一部付いているものも存在します。
- ・アーキュエイトステッチはほとんど廃止され、ペンキステッチに変更になっています。
- ・革パッチ。
- ・ベルトループが付いています。
- ・片面刺繍、BIG" E"、赤タブ
- ・月桂樹ボタン、ドーナツボタン、LEVI S ボタンと様々なものが使われています。
- ・コインポケットのリベットはほとんど削除されていますが、一部付いているものも存在します。
- ・S 5 0 1 x x のSはSIMPLEFIELD(簡素化された)という意味です。
- ・戦時中の物資統制の混乱のために様々な仕様になっています。
- ・重さが13.5オンスに変更
- ・スレーキ(ポケット袋地)には安価なヘリンボーンツイル、ネル生地が使用されています。



戦時中にスチール製の内側リベットに変更になりましたが、中には銅製内側リベットも存在します。写真は銅メッキされたスチール製の内側リベットになります。判別は磁石を近づけるとスチールはくっきます。



大戦モデルはアーキュエイトステッチも存在しますが、基本的にはペンキステッチに変更になっています。補強も隠しリベットです。



コインポケット補強のリベットも廃止になっています。



赤タブはBIG" E"の片面刺繍です。47年頃の大戦モデル後期になってくると、写真のような経年劣化してしまう赤タブが使われているのが特徴です。



大戦モデルの革パッチです。こんなに綺麗に残っているものは価値が高いです。501 x xの前にSが付いているのが確認できます。大戦モデルの証拠です。

とにかく様々な仕様になっていることが特徴です。状態の良いもので60万円位、状態の良くないもので25万円位はします。大戦モデルはひょっとすると査定する可能性があります。覚えましょう。



大戦モデルの最大の特徴は写真の月桂樹ボタンです。戦時中は月桂樹ボタンのほかに無地のドーナツボタンや通常のLEVI S ボタンも使われています。トップがドーナツでボタンフライが月桂樹ボタンの場合もあります。

特徴

- ・アーキエイトステッチの復活、2本針に変更。
- ・5ポケット（補強は隠しリベット）
- ・革パッチ
- ・ベルトループ（まだセンターに付いています。詳しくは次の年代で・・・。）
- ・赤タブ、BIG”E”、片面刺繍
- ・パッチのLOTが戦前の501xx表記に戻ります。（Sが消えます。）
- ・コインポケットのリベット補強も復活しています。



LOTを見てください。501xxの前にSが無く、戦前と同じ仕様に戻っています。



アーキエイトステッチの復活と、2本針への変更が特徴です。1本針と2本針の見分け方はステッチの真ん中（尖っている三角部分）が交差しているかしていないかです。この写真の場合は交差しているので2本針になります。（1本針の写真は1922～1936の資料を見てください。）



サイドシームです。赤耳がはっきりと分かります。



内側のリベットです。戦後はしっかりと銅製に変更されています。



まだ変更は無く、片面刺繍でBIG”E”です。次の52年以降からRマークが付きます。



次の年代との最大の違いは、この年代まで後ろの中心にあるベルトループが中心にまっすぐついていることです。次の年代からベルトループがずれて付けられていきます。センターループとオフセットループと呼んだりします。

特徴

- ・5ポケット(補強は隠しリベット)
- ・アーキエイトステッチ(2本針)
- ・革パッチ
- ・ベルトループ
- ・赤タブが両面に変更。Rマーク表記が入ります。もちろんBIG" E"。



アーキエイトステッチの復活と、2本針への変更が特徴です。1本針と2本針の見分け方はステッチの真ん中(尖っている三角部分)が交差しているかしていないかです。この写真の場合は交差しているので2本針になります。(1本針の写真は1922～1936の資料を見てください。)



サイドシームです。赤耳がはっきりと分かります。



1947年モデルからこのタイプのリベットに変更になっています。中央が叩かれていないのが特徴です。

LOTを見てください。501xxの前にSが無く、戦前と同じ仕様に戻っています。



書くのを忘れていましたが、1910年頃からこのタイプのトップボタンです。中央が窪んでないのが特徴です。



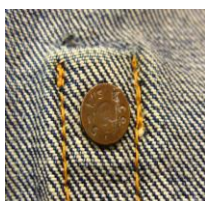
52年を挟んでの違いがこのタブです。まず、片面刺繍から両面刺繍になっています。そしてRマークが付くようになりました。

特徴

- ・5ポケット(隠しリベット)
- ・アーキエイトステッチ
- ・紙パッチに変更になりました。
- ・ベルトループがついにオフセットになります。
- ・タブは両面刺繍、BIG" E"、Rマーク入りです。
- ・ジッパーの登場です。



変わらず、赤タブ、両面刺繍、BIG" E"、Rマーク入りです。



内側のリベットです。特に変更はありません。



ついにジッパータイプの登場です。採用されていたのはGRIPPER社製、CONMAR社製です。(自分が確認できている範囲です。)もちろん、ボタンフライタイプもあります。ただし、レプリカでも忠実に再現されているのでグリップパーのジッパーが使われているからといってVINTAGEと判断するのはやめましょう。



写真で判断できますが、センターのベルトループがずれています。これをオフセットと呼びます。特徴として覚えてください。



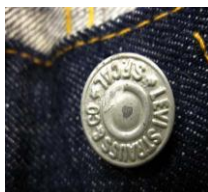
この年代から採用になった紙パッチです。革パッチから紙パッチに変更になった理由としてはパッチの強度の為だそうです。

特徴

- ・5ポケット。補強は隠しリベット。後期モデルからバータック使用になっています。
- ・アーキエイトステッチ (2本針)
- ・紙パッチ (ギアラ: EVERYGAMENT GUARANTEED 表記無し)
- ・ベルトループ: 前期はオフセット、後期はセンターになっています。
- ・赤タブ、両面刺繍、BIG" E"、Rマーク入り
- ・501xxの最終モデル、63年以降はxx無しの501になります。



ボタンフライト、ジッパータイプの両方あります。



トップボタンです。



この時のモデルも両面刺繍、Rマーク入り、BIG" E" です。



バックポケットの補強は前期が隠しリベット、後期モデルはバータックになります。



ベルトループは基本的にオフセットになりますが、63年頃からはセンターも存在します。



1954～1957年頃との大きな違いは紙パッチにギアラ (EVERYGAMENT GUARANTEED) の表記が入っているか無いかの違いです。1957～1963年頃の501xxには写真のようにパッチにギアラ表記がありません。

1963～1969年頃

501xx501, 501501 (ダブルネーム)、S, A TYPE、BIG E

特徴

この年代が一番難しいです。色々な憶測や持論が入ってしまう年代なので確実ではないのですが、店舗に入ってくる可能性、売れていく可能性が一番高い年代です。正確な年代でなくても構いません。特徴だけ覚えて販売金額を把握してください。ダブルネームやタイプ物など細かく分けられるのですが、要するに”BIG E”です。では、なぜこんなに細かく分かれているかと思ふに思ふのですが、501xxのxx(ダブルエックス)がどういう意味か知っていますか？エクストラ・エクシードの略で「良い生地を使っています。」的な意味です。これを当時の経営者が認知度が上がってきたので表記しなくてもよいと判断したそうです。しかし、いきなり表記を変更すると、お客様を混乱させるのではないかと考え、徐々にxx無しに移行させていったのです。要するに移行期に作られた501ということ。だから1957～1963年頃の501xxが最終のダブルエックスと呼ばれているのです。好きな人に見ればxxが表記されているかされていないかは大きな違いです。販売金額も大きく変わってきます。この年代は覚えたほうが良いでしょう。

紙パッチが無かった時の判断方法

まず、面倒なのでバックポケット裏の内側リベット(隠しリベット)の有無で年代を大まかに判断してください。内側リベット有を501xx最終モデル、内側リベット無を501 BIG Eとしてください。(本来はもっと細かく分かります)写真の内側にはリベットがありません。よってこのモデルは501xxではないモデルと判断してください。次に赤タブを見てBIG Eなら60年代501と判断します。SMALL eなら次の66モデル(70年代)かも知れませんが、ただの赤耳かも知れません。(次以降に説明します。)ただし、紙パッチが残っていて、501xxと判断できたものに関しては、内側のリベットが無くても501xxと判断してください(501xx最終モデル)。あくまで今の説明は紙パッチが残っていなかった場合の判断方法です。ちなみに66モデルのBIG Eも存在します。実際にはフロントポケットの内側リベットが銅製ならxxです。バックポケットの裏リベ無、BIG E、フロント裏リベ銅製なら501xx最終モデルと判断します。



501 BIG Eと判断したら・・・。もっと細かく見てみましょう。



タイプ物の紙パッチになります。501表記の上にA, S, Fと表記されているのが分かるでしょうか？このアルファベットが付いているものをタイプ物501と呼びます。もちろん”BIG E”です。移行期に作られた501で、xx表記をしなくなった代わりに付けられたものです。Aが最上級、Sが上、Fが下とランク付けされているようです。501xxのxx廃止以降、LEVI S社内で品質委員会的な部ができたそうです。その委員会が判断したランクです。



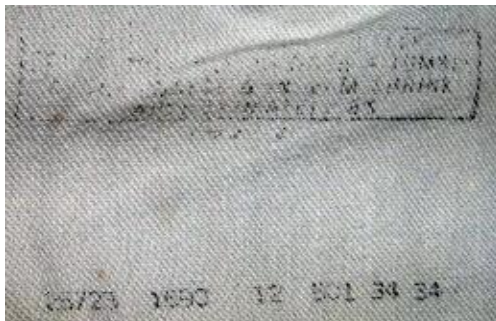
これがWネームといわれている501の紙パッチです。種類は501501、501xx501などです。こちらももちろんBIG Eです。

特徴

みなさん御馴染みのヴィンテージボトムの代表格、501 66モデルです。大きく前期と後期に分けられます。まず、前期は1969~1974年頃まで、後期は1974~1980年頃までの501のことを指します。前期時代には3年間くらいの間、BIG Eも並行して製造されていたために判断が難しい部分と思われがちですが、判別は簡単です。価格も手ごろで、リアルクローキングとして街履きにも適しているため売れる商品です。しかし、66モデルの中にも、製造された10年の間にモデルチェンジがあり、人気や価値も変化します。トップボタン裏の刻印が6だから66ではありません。66年に製造されていたわけでもありません。実際にはほとんどの66モデルが70年代の商品です。間違えないようにしましょう。ようするにCARE表示があり、収縮率が8%で、赤耳で、501なら66モデルということです。



66モデルの最大の特徴は、まず紙パッチにCARE INSTRUCTIONS INSIDE GARMENTとスタンプが押されていることです。(写真の501の上に文字が書いてありますが、これがそうです。)意味は内側に注意書きがあります的な意味です。これをケアラベルと呼びます。実際にはケアラベルは80年代の赤耳モデルにも付いていますが、判別方法としては簡単です。内側の注意書きの内容が違います。(次の写真で説明します)



CARE INSTRUCTIONS INSIDE GARMENTの内容です。左の写真がポケットの内側に表記されているタイプです。右が内側に縫い付けられているタグタイプです。内容としては「洗濯すると8%縮みます」という内容です。これが66モデルと赤耳モデルの見分け方の違いです。赤耳モデルは10%になっています。なので、CAREラベル付きのパッチで8%であれば66モデルと判断します。10%は赤耳モデルの501と判断します。



まずは赤タブから説明します。69年頃からBIG EからSMALL eに変更になり始めます。並行してBIG Eは作られますが、71年に完全に廃止されます。なので、CARE表記があり、BIG Eであれば66BIG Eです。このモデルは3年間しか製造されておらず、66モデルの中でも一番人気のあるモデルではないでしょうか？71年以降からはSMALL eに変更になります。写真の赤タブがそれです。もうひとつ注目して欲しいことが赤タブの上に黒い糸が見えますが、これがカンヌキ糸です。リベットで補強していた部分を糸縫いによって補強してあります。糸が黒いもののほど年代の古いモデルで黄色いものは最近のモデルになります。黒い糸で縫われているものを黒カンと呼びます。

前期と後期を見極めよう

66モデルの中でも年代が分かれることは説明しました。66BIG Eは66モデルの初期だといえます。大きく分けて前期と後期があるのですが、66BIG Eは前期に入ります。しかし、前期の中にはBIG Eではないモデルも存在します。1969～1974年頃までの501を66前期モデルと呼びます。1974～1980年頃までの501を66後期モデルと呼びます。では前期と後期の違いはどこなのでしょう？次の写真を見てください。

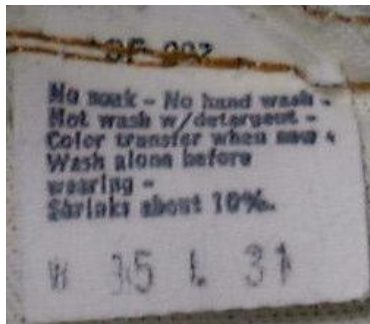


バックポケット裏のステッチ写真です。左が前期、右が後期になります。違いが分かりますか？答えはステッチの違いです。前期（左側の写真）はシングルステッチなのに対して、後期（右側の写真）はチェーンステッチになっています。これが501 66モデルの前期と後期の違いです。分かり易いので覚えてください。

501 赤耳

特徴

1980～1986年頃までのセルピッチ（赤耳）タイプの501を赤耳モデルと呼びます。66モデルとの違いは収縮率が10%に変更されていることです。CARE付きパッチで、収縮率10%で、赤耳で501は赤耳モデルと判断できます。86年頃には赤耳が廃止になりますので、その頃までの赤耳付き501までがVINTAGE 501と呼ばれています。



左の写真でははっきりと10%と表記されているのが確認できます。これが66モデルと赤耳モデルの大きな違いです。

VINTAGEとレプリカ物の見分け方

長く501について説明してきましたが、例えば40年代の501xxのレプリカとオリジナルの違いが分かりますか？まあ、普通は状態で判断できるのですが、もしもDEAD STOCKを査定する時の判断方法を簡単に説明しておきます。

内側に縫い付けられているタグを見つけよう。

洗濯表示タグでも、サイズ表記タグでも構いませんが、日本語で表記がある時点でレプリカです。ウインターとは主にアメリカ製の古いものを呼びます。アメリカ製です。英語です。もちろん、アメリカ発売のレプリカは英語表記です。ウインターにはCARE～の部分で説明した白いタグしか付いていません。もちろん何も付いていないものもあります。タグを覚えれば簡単なんです。まずは日本語のタグが付いていないかを判断してください。

トップボタン裏の刻印について

トップボタンの裏側を見てください。数字が刻印されていると思います。Jと数字が刻印されているものは全てレプリカです。3桁の数字の刻印もレギュラーモデルか、レプリカです。ウインターは数字一桁か、アルファベット一文字の刻印です。60年頃よりこの刻印は使われ始めました。60年以前は何も刻印されていませんが、雰囲気が明らかに違います。

他

Vステッチやベルトループの太さやカンヌキ系の違い、細かなディテールの違いなどまだまだ書き足りないくらい奥が深いのがLEVIS 501です。トップボタンに刻印されているRの足の長さが年代により違います。こういう部分を自分で調べてみてください。あくまで今回は簡単な判別の仕方です。書き忘れていることも多くあると思いますが、興味を持って頂けたら幸いです。最後にコインポケットの内側の耳について説明します。66前期モデルで廃止され、それ以降は見えなくなってしまいました。501xx時代には多くのデニムにコインポケット耳付きが存在しました。66前期やBIG E後期にも存在しています。イレギュラーで付けていたようで耳付きでないものも存在します。気になる方はネットで検索してみてください。